

【表紙】

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成29年8月14日 |
| 【四半期会計期間】 | 第159期第1四半期（自平成29年4月1日至平成29年6月30日） |
| 【会社名】 | 株式会社巴川製紙所 |
| 【英訳名】 | TOMOEGAWA CO., LTD. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 井上 善雄 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都中央区京橋一丁目7番1号 |
| 【電話番号】 | 03(3561局)7121番(大代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役常務執行役員CFO経営戦略本部長 山口 正明 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 静岡県静岡市駿河区用宗巴町3番1号 |
| 【電話番号】 | 054(256局)4319番 |
| 【事務連絡者氏名】 | 経営戦略本部経理グループマネージャー 長谷川 俊樹 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第158期 第1四半期 連結累計期間 | 第159期 第1四半期 連結累計期間 | 第158期 |
|--|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日 | 自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日 | 自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 7,397 | 9,203 | 32,379 |
| 経常利益又は経常損失 () (百万円) | 175 | 349 | 465 |
| 親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 () (百万円) | 285 | 191 | 252 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 555 | 320 | 1,033 |
| 純資産額 (百万円) | 11,678 | 13,318 | 13,260 |
| 総資産額 (百万円) | 38,910 | 37,669 | 38,275 |
| 1株当たり四半期(当期) 純利益金額又は1株当たり四半 期純損失金額 () (円) | 5.60 | 3.76 | 4.96 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 26.1 | 31.2 | 30.6 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー (百万円) | 596 | 654 | 2,054 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (百万円) | 321 | 276 | 535 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (百万円) | 103 | 537 | 1,912 |
| 現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円) | 3,386 | 2,493 | 2,666 |

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第158期第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

4 第159期第1四半期連結累計期間及び第158期における潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用関連会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の回復を受けて輸出が増加を続けるなか、企業収益の改善が進み景気は緩やかな回復基調が続いております。

このような状況の下、当社グループにおきましても、IoTの進展で活況を呈する半導体市場向け電子部品関連製品が好調に推移したことや、製品サイクルが比較的短く、市場動向が不透明なディスプレイ市場向け光学フィルムが、当初予想を上回って順調に推移しました。また、世界経済の回復基調を背景にワールドワイドに展開するトナー事業において、販売数量の増加に加え、近年上市した新製品の貢献、機器メーカーの再編等をにらんでの一時的な引き合い増加などがありました。一方、市場が縮小する既存製品を抱える機能紙事業でも、営業努力と新製品の貢献により前年と同レベルの売上高を確保しました。さらに、中国事業について、事業管理と連結決算の精度向上のために当期より3月末決算に統一する影響814百万円が加わり、売上高は前年同期と比べ1,806百万円増収の9,203百万円（24.4%増）となりました。

利益面では、売上増加に加え、当期計画した電力等のコストダウンや固定費抑制施策を着実に実施しつつ、好調な受注を背景に生産性向上にも努めた結果、営業利益は339百万円となり、前年同期に比べ428百万円増益となりました。

また、営業利益の改善に加え、前第1四半期末は為替レートが円高に振れ、為替差損を計上しましたが、当第1四半期は安定的に推移したこともあり若干の為替差益を計上した結果、経常利益は349百万円と前年同期に比べ524百万円増益となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は191百万円と、前年同期に比べ476百万円増益となり、いずれも大幅な改善となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

プラスチック材料加工事業

プラスチック材料加工事業では、IoTの進展で活況を呈する半導体市場向け電子部品関連製品が好調に推移したことや、製品サイクルが比較的短く、市場動向が不透明なディスプレイ市場向け光学フィルムが、当初予想を上回って順調に推移しました。また、世界経済の回復基調を背景にワールドワイドに展開するトナー事業において、販売数量の増加に加え、近年上市した新製品の貢献、機器メーカーの再編等をにらんでの一時的な引き合い増加などがありました。さらに上述の通り、中国事業について、事業管理と連結決算の精度向上のために当期より3月末決算に統一する影響が加わり、また、利益面では、売上増加に加え、電力等のコストダウンや固定費抑制施策を着実に実施しつつ、好調な受注を背景に生産性向上にも努めました。

この結果、売上高は6,313百万円（対前年同期比38.0%増）となり、セグメント（営業）利益は301百万円と、対前年同期比で323百万円の増益となりました。

製紙・塗工紙関連事業

製紙・塗工紙関連事業では、市場が縮小する既存製品を抱える中、営業努力と新製品の貢献により前年と同レベルの売上高を確保しました。また、利益面では、電力等のコストダウンや固定費抑制施策を着実に実施しました。

この結果、売上高は2,872百万円（対前年同期比2.4%増）となり、セグメント（営業）利益は20百万円と、対前年同期比で97百万円の増益となりました。

その他の事業

売上高は17百万円（対前年同期比0.6%増）となり、セグメント（営業）利益は14百万円（対前年同期比163.3%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ173百万円減少し、2,493百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益352百万円に、法人税等の支払額が133百万円発生したものの、減価償却費400百万円の計上があったことなどから、654百万円の増加となり、前年同期と比べ57百万円の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が274百万円あったことなどから、276百万円の減少となり、前年同期と比べ45百万円の増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純増加額が554百万円あったものの、長期借入金の返済による支出が818百万円、配当金の支払額が244百万円あったことなどから537百万円の減少となり、前年同期と比べ641百万円の減少となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、255百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因について重要な変更はありません。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、37,669百万円で、前連結会計年度末に比べ606百万円の減少となりました。流動資産は19,526百万円で、前連結会計年度末に比べ478百万円の減少となり、その主な要因は製品が増加したものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金、原材料及び貯蔵品が減少したことなどによるものです。固定資産は18,143百万円で、前連結会計年度末に比べ127百万円の減少となり、その主な要因は償却による有形固定資産の減少があったことなどによるものです。

負債合計は、24,350百万円で、前連結会計年度末に比べ664百万円の減少となりました。流動負債は16,157百万円で、前連結会計年度末に比べ734百万円の増加となり、その主な要因は短期借入金が増加したことなどによるものです。固定負債は8,192百万円で、前連結会計年度末に比べ1,399百万円の減少となり、その主な要因は返済による長期借入金の減少があったことなどによるものです。なお、当第1四半期連結会計期間末における有利子負債残高は、12,309百万円と、前連結会計年度末に比べ264百万円の減少となりました。

また、純資産は、13,318百万円で、前連結会計年度末に比べ58百万円の増加となりました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 100,000,000 |
| 計 | 100,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成29年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成29年8月14日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|--|-----------------------------|------------------------------------|-----------------|
| 普通株式 | 51,947,031 | 51,947,031 | 東京証券取引所 市場第一部 | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 51,947,031 | 51,947,031 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数(株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金増 減額(百万円) | 資本準備金残 高(百万円) |
|--------------------------|-------------------|------------------|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| 平成29年4月1日～ 平成29年6月30日 | - | 51,947,031 | - | 2,894 | - | 3,569 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-----------------|----------|------------------|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 486,000 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 51,365,000 | 51,365 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 96,031 | - | 1単元(1,000株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 51,947,031 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 51,365 | - |

(注)1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式917株が含まれております。

2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|------------|-------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| (株)巴川製紙所 | 東京都中央区京橋 1-7-1 | 486,000 | - | 486,000 | 0.93 |
| 計 | - | 486,000 | - | 486,000 | 0.93 |

(注) 株主名簿上当社名義になっている株式は全て実質的に所有しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日) |
|-----------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,720 | 2,547 |
| 受取手形及び売掛金 | 7,145 | 6,999 |
| 製品 | 6,449 | 6,545 |
| 仕掛品 | 58 | 64 |
| 原材料及び貯蔵品 | 2,106 | 1,942 |
| その他 | 1,530 | 1,433 |
| 貸倒引当金 | 7 | 6 |
| 流動資産合計 | 20,004 | 19,526 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 5,377 | 5,257 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 4,080 | 3,962 |
| その他(純額) | 4,516 | 4,556 |
| 有形固定資産合計 | 13,974 | 13,776 |
| 無形固定資産 | 265 | 251 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 4,051 | 4,136 |
| 貸倒引当金 | 20 | 21 |
| 投資その他の資産合計 | 4,031 | 4,114 |
| 固定資産合計 | 18,270 | 18,143 |
| 資産合計 | 38,275 | 37,669 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 5,839 | 6,067 |
| 短期借入金 | 1,243,377 | 1,244,936 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 2,269 | 2,782 |
| 未払法人税等 | 166 | 84 |
| 賞与引当金 | 381 | 117 |
| その他 | 2,389 | 2,169 |
| 流動負債合計 | 15,422 | 16,157 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 5,928 | 4,590 |
| 退職給付に係る負債 | 2,309 | 2,254 |
| 役員退職慰労引当金 | 180 | 189 |
| その他 | 1,174 | 1,157 |
| 固定負債合計 | 9,592 | 8,192 |
| 負債合計 | 25,015 | 24,350 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,894 | 2,894 |
| 資本剰余金 | 3,582 | 3,582 |
| 利益剰余金 | 4,877 | 4,811 |
| 自己株式 | 330 | 330 |
| 株主資本合計 | 11,023 | 10,957 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 364 | 474 |
| 繰延ヘッジ損益 | 1 | 1 |
| 為替換算調整勘定 | 44 | 97 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 384 | 430 |
| その他の包括利益累計額合計 | 703 | 805 |
| 非支配株主持分 | 1,533 | 1,554 |
| 純資産合計 | 13,260 | 13,318 |
| 負債純資産合計 | 38,275 | 37,669 |

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日) |
|---|---|---|
| 売上高 | 7,397 | 9,203 |
| 売上原価 | 6,256 | 7,432 |
| 売上総利益 | 1,141 | 1,771 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,230 | 1,432 |
| 営業利益又は営業損失() | 89 | 339 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1 | 1 |
| 受取配当金 | 24 | 25 |
| 受取保険金 | 5 | 11 |
| 持分法による投資利益 | 18 | 13 |
| その他 | 14 | 19 |
| 営業外収益合計 | 65 | 71 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 46 | 48 |
| 為替差損 | 88 | - |
| その他 | 16 | 13 |
| 営業外費用合計 | 151 | 61 |
| 経常利益又は経常損失() | 175 | 349 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 0 | 4 |
| 特別利益合計 | 0 | 4 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 11 | 0 |
| 特別損失合計 | 11 | 0 |
| 税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失() | 186 | 352 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 27 | 86 |
| 法人税等調整額 | 30 | 41 |
| 法人税等合計 | 58 | 127 |
| 四半期純利益又は四半期純損失() | 244 | 225 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失() | 285 | 191 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 40 | 33 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 40 | 107 |
| 繰延ヘッジ損益 | 6 | 0 |
| 為替換算調整勘定 | 334 | 64 |
| 退職給付に係る調整額 | 66 | 45 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 7 | 6 |
| その他の包括利益合計 | 310 | 95 |
| 四半期包括利益 | 555 | 320 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 552 | 293 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 3 | 26 |

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日) |
|-----------------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失() | 186 | 352 |
| 減価償却費 | 385 | 400 |
| 役員退職慰労引当金の増減額(は減少) | 5 | 9 |
| 退職給付に係る負債の増減額(は減少) | 135 | 10 |
| 受取利息及び受取配当金 | 26 | 26 |
| 支払利息 | 46 | 48 |
| 売上債権の増減額(は増加) | 547 | 149 |
| たな卸資産の増減額(は増加) | 618 | 61 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 392 | 228 |
| その他 | 17 | 430 |
| 小計 | 653 | 804 |
| 利息及び配当金の受取額 | 27 | 26 |
| 利息の支払額 | 37 | 43 |
| 法人税等の支払額 | 52 | 133 |
| 法人税等の還付額 | 6 | - |
| その他 | 0 | - |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 596 | 654 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 304 | 274 |
| その他 | 17 | 1 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 321 | 276 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(は減少) | 520 | 554 |
| 長期借入れによる収入 | 545 | - |
| 長期借入金の返済による支出 | 691 | 818 |
| 配当金の支払額 | 243 | 244 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | 4 | 4 |
| その他 | 22 | 24 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 103 | 537 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 95 | 13 |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少) | 282 | 173 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,104 | 2,666 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 3,386 | 2,493 |

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結子会社の事業年度に関する変更

従来、決算日が12月31日であった中国関連事業の連結子会社 5 社については、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引について連結上必要な調整を行っておりました。当第 1 四半期連結会計期間より、連結財務情報のより適正な開示を図るため、TOMOEGAWA HONG KONG CO.,LTD.、(株)巴川ホールディングス惠州及び日彩控股有限公司の 3 社は決算日を 3 月31日に変更し、また、巴川影像科技(惠州)有限公司及び日彩影像科技(九江)有限公司の 2 社については連結決算日に仮決算を行う方法へ変更しております。

これらの変更に伴い、当第 1 四半期連結累計期間は平成29年 1 月 1 日から平成29年 6 月30日までの 6 ヶ月間を連結し、連結損益計算書を通じて調整しております。

なお、当該子会社の平成29年 1 月 1 日から平成29年 3 月31日までの売上高は814百万円、営業利益は23百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ35百万円であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 コミットメントライン契約

当社においては運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日) |
|---------------------------|-------------------------|------------------------------|
| 当座貸越極度額及び貸出 コミットメントの総額 | 5,000百万円 | 5,000百万円 |
| 借入実行残高 | 1,600 | 2,000 |
| 差引額 | 3,400 | 3,000 |

2 財務制限条項

「1」の契約には下記の財務制限条項等が付されており、特定の条項に抵触した場合、その条項に該当する借入先に対し借入金を一括返済することになっております。

| 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日) |
|--|------------------------------|
| 平成27年3月期末日以降の各事業年度の末日における連結貸借対照表に示される純資産の部の金額を、平成26年3月期末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額、又は直前の事業年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額のうち、いずれか高いほうの金額以上に維持すること。 平成27年3月期第2四半期以降の各第2四半期会計期間の末日における連結貸借対照表に示される純資産の部の金額を、平成26年3月期第2四半期会計期間の末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額、又は直前の事業年度第2四半期会計期間の末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額のうち、いずれか高いほうの金額以上に維持すること。 | 同左 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 現金及び預金勘定 | 3,440百万円 | 2,547百万円 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | 54 | 54 |
| 現金及び現金同等物 | 3,386 | 2,493 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|--------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|-----------|-------|
| 平成28年5月20日 取締役会 | 普通株式 | 257 | 5 | 平成28年3月31日 | 平成28年6月9日 | 利益剰余金 |

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|--------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|-----------|-------|
| 平成29年5月22日 取締役会 | 普通株式 | 257 | 5 | 平成29年3月31日 | 平成29年6月8日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 財務諸表 計上額 (注)3 |
|---------------------------|----------------------|----------------|-------|-------------|-------|-------------|------------------------------|
| | プラスチック 材料加工 事業 | 製紙・塗工 紙関連事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 4,574 | 2,805 | 7,380 | 17 | 7,397 | - | 7,397 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | 0 | 44 | 44 | 201 | 245 | 245 | - |
| 計 | 4,574 | 2,849 | 7,424 | 218 | 7,642 | 245 | 7,397 |
| セグメント利益 又は損失() | 22 | 76 | 98 | 5 | 93 | 4 | 89 |

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額4百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 財務諸表 計上額 (注)3 |
|---------------------------|----------------------|----------------|-------|-------------|-------|-------------|------------------------------|
| | プラスチック 材料加工 事業 | 製紙・塗工 紙関連事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 6,313 | 2,872 | 9,186 | 17 | 9,203 | - | 9,203 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | 0 | 43 | 44 | 209 | 253 | 253 | - |
| 計 | 6,313 | 2,916 | 9,230 | 227 | 9,457 | 253 | 9,203 |
| セグメント利益 | 301 | 20 | 321 | 14 | 335 | 3 | 339 |

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額3百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 6 月30日) | 当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 6 月30日) |
|---|--|--|
| 1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額 () | 5.60円 | 3.76円 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額 () (百万円) | 285 | 191 |
| 普通株主に帰属しない金額 (百万円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損 失金額 () (百万円) | 285 | 191 |
| 普通株式の期中平均株式数 (株) | 51,002,040 | 50,973,611 |

(注) 1 前第 1 四半期連結累計期間の、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、1 株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 当第 1 四半期連結累計期間の、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

平成29年 5 月22日開催の取締役会において、平成29年 3 月31日現在の株主名簿に記載された株主に対し、剰余金の配当を行うことを次のとおり決議いたしました。

- (1) 配当金の総額 257百万円
- (2) 1 株当たり配当額 5 円
- (3) 効力発生日 平成29年 6 月 8 日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8月14日

株式会社巴川製紙所
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉澤 祥次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 角田 大輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社巴川製紙所の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社巴川製紙所及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。